

# 東奥日報

2018年(平成30年)8月20日月曜日 (18)

ハイブリッド車

電気自動車

## 感電防ぎ迅速な救助を



消防職員にPHVの仕組みを解説する浅川さん

八工大・浅川講師

### 講習プログラム開発中

普及が進んでいるハイブリッド車(HV)や電気自動車(EV)が事故に遭った際、救助を安全に行えるよう、八戸工業大学(八戸市)の浅川拓克講師(自動車工学)が消防職員向けの講習プログラム開発に取り組んでいる。

HV、EVは走行用モーターを動かすため高電圧のシステムが使われている。

プログラムの開発は、感電などの二次災害を防ぎ、迅速な救助につなげる狙いがある。

ある。

7月末に同大で、同大機械工学科と自動車技術会東北支部の主催で講習会を開いた。プラグインハイブリッド車(PHV)の事故を想定し、岩手県の消防職員10人を対象に行った。

ボンネットやトランクが開けられるか、エンジンが停止しているか、などさまざまな条件ごとに、システムを完全停止させる方法を浅川講師が説明。消防職員は、検電器で車の状態を確認したり、実際に部品を外したりして、バッテリーの電力を遮断して安全を確保する手法を学んだ。

参加者の1人は、ガソリン車と比べハイブリッド車からの救助はまだ習熟が必要として「正しい知識を得て二次災害に遭わないた

めの準備ができれば、より早く救助に入ることができると、専用プログラムの意義を語った。

浅川講師によると、消防職員も受講する電気を取り扱う人のための講習は、工事などが想定されており、HVやEVを扱う機会は少ないという。

メーカーが公開しているレスキュー時のマニュアルはあるが、浅川講師は「救助の現場では想定外の事案

に遭遇して、マニュアル通りにいかないことも多い」と指摘。「研究者はシミュレーションや実験ができる環境にある。消防職員か

らの『こういうときはどうしたら』という相談を、救助の現場にフィールドバックできれば」と話している。